



米子市福市考古資料館通信

第3号

2021年12月



常設展「米子の原始・古代」開催中

福市考古資料館では、米子の原始・古代の様子を理解していただくために、発掘調査で分かった遺跡の写真や出土遺物を展示して紹介しています。

観覧無料ですので、是非、ご来館下さい。お待ちしております。

土器が語る米子の歴史

米子の遺跡から出土した土器の移り変りを理解していただくために、縄文時代から奈良時代の遺跡から出土した土器を時代順に展示しています。

遺跡から出土する土器は、日常生活で使われていた煮炊き用の甕（鍋）や貯蔵用の壺、供膳用の碗、皿、鉢、高坏などと、お墓に供えた供献用の土器があります。時代によって形や文様が変わっているため、時間の物指や文化の指標として使われています。

縄文時代の土器 米子で最も古い土器は、縄文時代早期（八千年前）の土器で山形や菱形の押型文を付けた底の尖った土器です。前期（六千年前）には爪形、中期（五千年前）には縄文。後期には（四千年前）には磨消縄文、晩期（三千年前）には凸帯文などと、文様や形が変遷します。

弥生時代の土器 縄文時代の土器に比べてシンプルな凹線文様で形も、壺や高坏が多くなります。前期（二千五百年前）から後期（千七百前）のものです。

古墳時代の土器 弥生時代の土器に比べ一層シンプルになり文様もほとんど付けられなくなります。土師器と呼ばれる素焼きの各種の土器と、須恵器と呼ばれる固い陶質の土器があります。

奈良時代の土器 古墳時代の土器と同じく、土師器と須恵器がありますが、赤く塗られた土師器や、土器底に高台が付いた土器が出現します。



縄文時代の土器



弥生時代の土器



古墳時代の須恵器

米子城三の丸跡調査の展示

米子市が進めている米子城跡整備に伴う発掘調査で解ってきた様子を理解していただくために、調査遺構の写真や出土遺物を入口正面のケースに展示して紹介しています。

江戸時代、三の丸には政務を行う施設や米蔵などがあったといわれ、旧湊山球場内の三の丸遺構確認の発掘調査が進められています。



三の丸米蔵跡



石敷水路

発掘調査では、元の湊山野球場のグラウンド面からわずか 20 cmほどの所で、江戸時代の建物基礎がみつき、建物基礎は石を詰めて突き固め、上面に平らな石を一直線に敷並べています。この建物は桁行 30m、梁行 6m で、片側に庇が付けられていたようです。

幕末の絵図には、この場所に検出された建物基礎と同規模の米蔵が描かれており、絵図の正確さも裏付けられました。同様の遺構は鳥取城の粃蔵跡でも見つかっており、鳥取藩にとって最も重要な、年貢を収める倉庫だったと考えられます。また、現存例としては東伯郡湯梨浜町橋津に藩倉があります。

また、米蔵建物基礎よりも古い時期に造られた石敷の水路が発見されました。石敷の水路は、幅 80 cm、深さ 30 cm で、長さは 20m 以上あり、水路底面には、青い石を薄く割ってタイル状に敷き詰められていました。江戸時代の絵図には、米蔵の西側に「空き家敷」や「一学屋敷」といった表記が見られることから、屋敷を区画する水路と推測されます。年代的には、江戸初期まで遡る可能性があることから、重要な発見となりました。

発行者 米子市福市考古資料館（指定管理者 一財・米子市文化財団）

住所 〒686-0011 米子市福市 4 6 1 - 2 0 番地

電話・fax 0 8 5 9 - 2 6 - 3 7 8 4 （同番号）

受付 受付員の木下、松浦が交代で勤務しています。

休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始（12/29～1/3）